



国学院大学

令和2年9月20日(日) 定期号(毎月20日発行) 1部20円

〔発行〕国学院大学 〔編集〕総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 〔電話〕03(5466)0130 〔FAX〕03(5466)0528

祭 儀 ■ 月次祭 10月1日(木) 午前10時 神殿

後期も原則遠隔授業で 大学教育の在り方を問い直す



国学院大学は、9月21日から始まる後期授業を原則として遠隔授業で実施することを決定した。新型コロナウイルスの収束に見通しが立たないことから、「学生・教職員の生命・身体を守り、大学の学びを守るため」としている。

一方で、実技・実習などの対面授業が必要不可欠と判断される科目に加え、演習など人数調整により安全の確保が見込めると判断される科目については、感染防止対策を講じた上で対面授業を行う。対面で行う138科目は8月7日、学修支援システム「K-SMAPY II」を通じて学生に公表された。

後期授業の開始に先立ち、延期されていた学生定期健康診断が8月3～7日に渋谷キャンパスで、9月1、2日にたまプラーザキャンパスで行われ、約半年ぶりに学生の姿がキャンパスに戻った。

9月8日からはサマーセッションが始まり、50近い開講科目の半数が対面で実施される。針本正行学長は前期授業について「改めて対面授業のかけがえのなさを実感するとともに、その本質を問い直す機会となった」と振り返り、後期授業の開始に向けて「学生の力、保護者の理解も得て、教職員一体となり新しい大学教育の在り方を見いだしたい」と展望を述べた。

学長インタビュー、5学部長メッセージは2・3面に掲載

緊急修学支援費に対する ご協力への御礼

理事長 佐柳正三



新型コロナウイルスに罹患された皆さま、さまざまな困難に直面されている皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、医療従事者の方々の多大なご尽力に深く感謝いたします。

学校法人国学院大学では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国学院大学の学生に対し緊急修学支援費の給付や修学支援特別貸付金の開設などの措置を講じてまいりました。また、法人傘下各校に対しても、学生・生徒・園児に緊急修学支援費の支援を行って

いるところです。

こうした取り組みに対して、関係各位にメッセージ募金のお願いを申し上げますところ、趣旨にご賛同いただきました皆さまから、心温まる激励のメッセージとともに多大なるご寄付をいただきました。法人を代表して深甚の謝意を表します。

世界で猛威を振るう今般の災禍は、収束の見通しすら立たない状況ですが、在籍するすべての学生・生徒・園児が無事に卒業・卒園し、自己実現をはかることができよう、引き続き私学として公共性と独自性のある教育研究体制の確立に万全を期す所存です。関係各位のさらなるご支援とご協力を心よりお願いいたします。

〔4面に関連記事〕

みはるかすもの

スポーツの祭典に熱狂し、戦後75年の節目に静かに不戦の誓いを新たにすることはできなかった夏は、感染症と熱中症の対策に追われた▼渋谷キャンパスの木立の下に「学徒慰霊之碑」が立つ。先の大戦では、召集を受けた多くの教職員、卒業生、学生が戦地に赴き、437人がついに帰らなかつた▼戦局が悪化する中、校舎を離れ各地の工場などで勤労動員にあたった歴史もある。当時を知る御巫清勇教授(故人)は、昭和38年の本紙66号で「朝の起床は五時で、六時から七時半までは朝の講義で、(略)八時からは出勤、五時に帰寮、夕飯後七時から九時までまた自習を励行して、ともすれば忘れ

勝ちになる学生意識を僅かに保持し得た(原文のまま)」と振り返る▼物資も乏しく、自由もない時代、諸先輩の学問への執念は後輩として見習わねばと思う▼戦時下で学んだ先輩たちに「戦争さえなければ」と思う時はどれだけあっただろうか。3四半世紀が過ぎた今、ウイルスとの戦いはいつしかウイズコロナ、新しい日常と感染症と折り合いをつける生活となっている▼「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的な事象によって決定される」という「計画的偶発性理論」を提唱する米国の教育学者、J・D・克蘭ボルツは偶然の出来事からチャンスをつかむために「常に学び、挑戦し、好奇心を持ち続けて」と説く。「コロナがなければ」という感情に少しふたをして、好奇心に火をつけてみたい。

今、キャンパスを歩く 学生たちの声を待つ学び舎の今は?

〔詳細は5～8面へ〕



名誉教授称号授与式 針本学長「学統を次の世代に」

国学院大学は7月21日、4月1日付で名誉教授の称号を贈ることが決まった6氏に対する称号授与式を渋谷キャンパスで行った＝写真。

出席した4氏に対して針本正行学長は、「本学の学統を、それぞれの専門を学生に教授し、確実な形で次の世代に繋いでいったものと思います。本学に対しての尽力に改めて御礼申し上げます」と敬意を表した。



オープンキャンパスはウェブで

例年8月に多くの受験生が集まるオープンキャンパスは、新型コロナウイルスの影響を受け、今年度はオンラインによる開催とした。8月上旬から大学紹介、入試制度説明や教員の模擬授業などの動画を国学院大学HPで公開している。

8月22、23日には教職員によるオンライン個別進学相談が行われ、各学部学科の教員らがパソコンの画面越しに受験生の質問に答えた。設置認可を申請中の観光学部（仮称）に着任予定の教員も初めて相談に応じ、準備が進む学部の学びについて説明した＝写真。



針本学長インタビュー

「たくましく前進を」 たゆまぬ努力に敬意

9月21日から始まる後期授業が前期に引き続き、原則遠隔授業での実施になった経緯や学生への思いを針本正行学長に聞く。

——新型コロナウイルス感染症の収束が見えない

国や自治体が経済対策と感染対策に取り組みのと同様に、大学も教育研究の充実と感染防止という難しい問題を突き付けられています。仲間と集まって学ぶ大学ならではの「場」の提供ができないことに、大変なもどかしさがあります。しかし、現在の感染状況からすると、教室での学びを全面的に再開するには感染拡大への不安を払拭することはできません。

——前期はすべての授業を遠隔で行った

前期授業は、①双方向ライブ配信方式 ②録画した授業を配信するオンデマンド方式 ③本学独自のK-SMAPYIIを通して課題

を与える方式④上記①～③を融合した方式で行いました。教員

は科目の目的や内容、規模などにより、最適と思われる実施形態を選択しましたが、対面が当たり前の授業を問いただす機会となりました。

私が担当する日本文学科の演習では、平常時は発表当日に資料を配布し、学生の発表を聞く形を取っていました。双方向ライブ配信方式の授業では、前日の夕刻までに資料をメール配信することで、学生は自主的に予習を行い、発表後の質疑応答が活発になりました。

ただオンラインでのやりとりはリアル感が乏しく、時に学生への説明や指導が一律にならざるを得ないもどかしさを感じることがありました。

——遠隔授業には長短がある

遠隔授業は一方通行で困ったなと受け止める学生もいれば、より集中して授業に臨むという学生もいました。すでに実施したアンケートを基に教員と学生双方の意見を取り入れ、後期の授業をよりよい形にしたいと考えています。

授業の課題が増えたという声もありますが、各教員は授業形態に応じて最善と思われる量の課題を出しています。教員間の連携や調整が必要であると認識しており、学生の意見を踏まえ改善を図っていきます。

教員は遠隔授業の新たなノウハウを獲得しています。さらに質の高い授業を実現するための研究や研修を、大学全体に広げる必要性があると思っています。

——後期も原則遠隔授業と決めた経緯は

新型コロナウイルスに収束の兆しが見えないうえ、全国から約1万人の学生が集まり授業体系が複雑な現状では、仮に対面授業を全面的に実施しても、国や自治体の指導や要請を受けて「明日からオンラインに切り替えます」といった柔軟な対応をすることは困難です。

また、通常、渋谷キャンパスでは約1700コマの授業が毎週開かれ、毎日6千人前後の学生が登校します。曜日や時間帯によって教室の使用率が100%近くになります。仮に定員50人の教室に3密対策を講じると、15～20人くらいしか入れません。3密対策を講じつつ本学の学生数に応じた教室を確保することが難しい状況にあります。



困難を受け止めて前へ

文学部長 石川 則夫



生き物の中で、言葉を持っているのが人間です。この場合の言葉を持つとは、ただ会話をする、意思疎通をするという単純な意味ではありません。情報伝達というなら、鳥や犬猫はおるか蜂や蟻だってしています。言葉を使うというのは、嘘がつけるということです。今ここにない何物かについて語る事ができるということです。つまり、人間はフィクションを作りだし、その世界を楽しみ、来るべき世界を考えることができるわけです。この力がなければ、親しい人を思うこともできな

いし、社会のあり方を問うこともできない。また、今はない過去、歴史を反省することもできない。このように言葉という不可思議な機能を身につけているおかげで、人間は自身自身の生も超えた先を見通すことができるわけです。今、人々と言葉を交わすことが困難になっています。しかし、書物とも会話はできるのです。また教室で会う前に、書物との会話、議論の腕をぜひとも磨いておいてください。

オンラインだからの議論を

経済学部長 橋元 秀一



生きていく上で、さらにはそれを守り豊かにしていくため、何が大切なものか、コロナ禍の中、私たちは目の当たりにしました。あなた自身は、人々は、企業や中央政府・地方自治体は、何をやってたでしょうか。そこには、私たちがしっかりと見つけ判断すべき姿が表れたのではないのでしょうか。

自分が何をすべきか、何をしたいのか、苦しいけれどやりがいのある道を探すべき機会が、若い皆さんに提供されました。企業や行政組織などが、従業員に対し顧客や国民に対し、

どのような態度をとり、どのような役割を担い運営したのか、観察しましたか。これからこそ、これまで以上に真価が問われるでしょうから、しっかりと観察しましょう。将来を考えている段階で、このような経験をしている皆さんは、他の世代にはない存在であり、新時代の経済や経営の中で、大いに活躍する人材になるだろうと大変期待しています。オンライン授業だからこそできる質疑応答や議論を積極的にやり、これまで以上に有意義な授業へと改革しましょう。

新たな日常と前進／復帰

法学部長 一木 孝之



令和2年度の後期授業が始まるうとしているキャンパスに、学生の姿は依然として見られません。教室で対面が果たせない寂しさは決して消えることなく、以前にも増して強くなるばかりです。

私たちは、予想すらなかった感染症の蔓延により一変した社会の中で、従来とは異なる生活様式を日常として受け入れていくことになりました。大学の在り方も、新たな段階に向かおうとしています。学生も、教職員も、感傷に浸ることなく、前進と復帰の両立

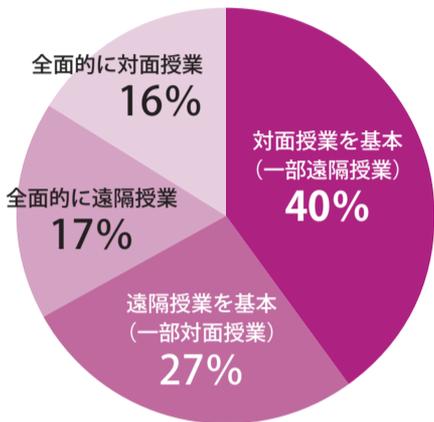
を目指すことが期待されています。

このような目標にとつて、教員と学生の協働により、試行錯誤の繰り返しで進められた遠隔授業の経験は、将来に向けての大変貴重な財産となりました。いま大切なことは、各人が倦まず、焦らず、自身にできることを着実に重ねていく歩みです。大学は、これからも、教育の万全に向けて、総力を挙げて取り組めます。皆さんも、決して絶望することなく、学びを諦めないでください。

学生アンケート 対面を望み 遠隔授業も一定の手応え

国学院大学が7月に実施した学生へのアンケートでは、回答者約4500人のうち57%の学生が機器や通信環境の不備や故障による支障が生じなかったと回答。一方で43%の学生が頻繁もしくは時々トラブルに見舞われていたと回答した。

平常時でも遠隔授業を積極的に取り入れるべきかを問う質問では、「対面授業を基本（一部遠隔授業）」が40%を占め、次いで「遠隔授業を基本（一部対面授業）」（27%）、「全面的に遠隔授業」（17%）、「全面的に対面授業」（16%）と続き、学生たちが対面授業の再開を望んでいる一方で、遠隔授業にも一定の価値を認めていることがうかがえる。



学生相談室に聞くリラックス法 授業の合間ストレッチで気分転換を

新型コロナウイルスの影響が長期化し、後期も原則として遠隔授業が実施されることが決まるなか、心身のリラックス法を学生相談室に聞いた。

不自由な生活が長く続くことで「やる気が出ない」「疲れやすい」「イライラする」「眠れない」「落ち込みやすい」など、心と体にいつもと違った変化が起きることは「誰にでも起こる自然な反応」だという。健康な生活を送るためには、バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠などを通じた抵抗力を高める心がけが重要とのことだ。

『眠れない』『イライラする』という人は、心身の緊張をほぐすリラクゼーションがおすすめです。授業の合間に背伸びをすることも良いでしょう」と紹介するように、運動には気分を改善させ、不安を減少させる効果がある。また、マイナスな感情から離れたい時には「SNSで信頼できる仲間と交流することや、好きなことを楽しむ時間をつくってみては」と勧める。

後期の授業が始まる中、「1人でうまくいかない時は、学生相談室の利用を」と呼び掛けている。相談の受付は、電話やメールでも対応する。前期に好評だったオンラインヨガ講座も開催予定。

包括連携のサッポロHDから 学生・生徒へ飲料提供

学校法人国学院大学はサッポロホールディングス（HD）株式会社から飲料などの商品提供を受け、来日中の交換留学生、寮生活を送る学生や法人傘下各校の生徒らに配布した。

本法人と同社は平成29年に包括連携協定を締結。小児がん支援の「レモネードスタンド」活動に協働で取り組むなど連携を重ねている。



小中高校では対面授業ができて大学でなぜできないのかという学生や保護者のお気持ちはよく理解できますが、本学の教育システム、施設環境からすると現段階で対面授業を全面的に実施することは感染リスクを高めることになりかねないことをご理解いただきたいと思います。

一方で、実技・実習など対面で行わなければならない教育効果が得られない一部の科目は開講できる環境を確保することを目指していきま

実技・実習を除いて対面で行う授業は、遠隔でも受けられるハイブリッド方式を取り入れ実施する予定です。大学は学生が自ら新しい知の創造をめざす空間です。コロナ禍を新しい知の創造を実現する契機ととらえ、学生の力、保護者の理解も得て、新しい大学教育の在り方を見いだしていきます。

——長引く遠隔授業で大学生の実感がないという声も出ている
4月以降、キャンパスでの授業は実施できず、課外活動も自粛せざるを得ませんでした。学びに対する強い意志を消さないよう、遠隔授業の質の向上を図ります。また、登校が困難な学生に配慮したハイブリッド方式による対面授業を拡大していきます。さらに、新しい大学教育に対応した学修環境も整え、皆さんが少しでも大学生としての実感を得ることができるよう努めたいと思います。

——学生に伝えたいことは
当初は、全て遠隔という授業形態への戸惑いがあったことでしょう。それにもかかわらず、総体としての前期の成績評価は、良好であったと聞いています。皆さんの修学意欲とたゆまぬ努力に、あらためて敬意を表したいと思います。新型コロナウイルスの感染がいつ拡大するかわからない現状では、従来どおりの全面的な対面授業の再開は見込めません。新たな学びの形態にも柔軟に対応し、決して歩みを止めることなく、たくましく前進してほしいと念じています。教職員と共にこの難局を乗り越えていきましょう。



今やるべきこと

神道文化学部長 西岡 和彦

二宮尊徳は、この世に天道と人道のふたつの道がある、といえます。天道とは、自然の大きな運動や環境、そして運命です。人はそれらから決して逃れることはできません。一方の人道とは、正しいと認識した方向へ進むうとする積極的な生き方です。われわれが天道のなかで、いかに人道をもって暮らすことができるのか、それは尽きることはない課題といえます。

昨今のコロナ禍は、まさしく天道です。この未曾有の環境下での学生生活で、いかに人



学ぶことを問い直す

人間開発学部長 成田 信子

教育系の学問に携わる者は、これまでも予測不可能な時代のなかで、学ぶ内容や学ぶ方法を考えてきたつもりでした。しかしこの半年間に起きたことは、社会にも大学にも予想を上回る速度で予想をはるかに上回る変化をもたらしました。今までは違っていた人との接し方が求められ、今までは違っていた授業が始まりました。

半年が過ぎた今感じているのは、学ぶことはひとえに自らだけでなく求めようとしているかにかかっているということです。たしか

に同じ教室に一堂に会しなれないことはあります。そのことをかみしめたいうえで、学ぶことは、ほかの世界にいる見知らぬ人たちといっしょになにかを成し得る可能性に満ちていると言いたいのです。

画面の向こうにいる見知らぬあなたとわたしは、自らの意思で互いに学び合うことができます。あえて、この新しい世界は時限で区切られるわけではないと申し上げ、共に歩んでいこうと呼びかけたいと思います。

神社実習 感染対策徹底し実施

神職課程を履修する学生に課される各種実習は、参加2週間前から1日2回の検温など健康観察記録をつけ、参加中はマスクの着用、手指消毒を徹底するなど感染防止対策を徹底して行われている。

例年3泊4日の日程で、明治神宮（東京都渋谷区）で行われる指定実習1は宿泊を取りやめ、3日間は大学で、1日を明治神宮で行うなど異例の形式で行われた。

指定実習1（2期）が始まった8月18日、大久保規志神道研修事務課長は開講にあたって「都のガイドラインののっとり感染防止対策を実施している。感染予防を意識しながら神社実習に挑んでもらいたい」と受講生に呼びかけた。

大学での実習では、130周年記念5号館・アリーナを使い、ソーシャルディスタンスを保ちながら基礎作法などの実技指導などが進められた＝写真。



オープンカレッジ後期も中止

学部、大学院の後期授業が原則遠隔授業で実施されることになったことを受け7月30日、後期のオープンカレッジ開講について全て中止することを発表した。

国学院大学のオープンカレッジは、伝統と実績に基づく学問を、年齢、学歴などを問わず、全ての方々に開放し、令和元年度は46講座で延べ約2000人が受講した。今年度は神道、文学、歴史、書道など44講座を用意していた。

「ともに前へ」寄付者の声

緊急修学支援費へのご支援をいただいた寄付者の声を、メッセージ募金サイトから一部を引用して紹介する。

▷国学院のおかげで、専攻にかかわらず学問のおもしろさを知ることができました。新たな学問、人、先生との出会いで皆さまの人生がますます発展していくことを願って。（卒業生）

▷私も九州から上京しましたが、今のような状況では勉強が続けられたか？とても難しかったのではないかと思います。少額ですが定額給付金の中から寄付します。（卒業生）

▷疫病はいつか収束します。そのとき、あの時間は無駄ではなかった、と思えるように過ごせられればと思います。（教職員）

▷長い人生の中で、今しかできないことがあるはず。皆さんが成長して、夢をかなえられるよう応援しています。（教職員）
▷大学生、中高生、そして園児、国学院で学ぶ全員がコロナに負けることなく頑張れ！

緊急修学支援費へのご支援は、本学HP (<http://kifu.kokugakuin.ac.jp/covid-19.html>) から応援メッセージを添えてお申し込みください。

「好きなものを」を極める

シブヤ沼フェス オンラインで

「シブヤ沼フェス」と題した国学院大学発のプレゼン・トークイベント「シブヤインテリジェンスライブ（SIL）」が8月22日、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使って開催された。この企画は3月に渋谷ヒカリエでの開催を予定していた

が、コロナ禍により中止となり、今回のオンライン開催に至った。テーマの「本屋」「活版印刷」「算数」にハマり、沼につかった登壇者（沼主）6人が次々に登場して、モデレーター（沼主）の川内イオさんとの軽快なやり取りで話題を広げた。

イベントには延べ約1000人の視聴者が画面越しに参加。沼主の好きなものへのあふれる熱意に耳を傾けた。「本屋沼」ではエア本屋を展開するいか文庫の粕川ゆきさんと移動式本屋「BOOK TRUCK」を運営する三田修平さんがそれぞれ取り

組みや本へのこだわりを話した。視聴者から本の選び方を聞かれると粕川さんが「インスピレーションで（装丁を見て買う）ジャケ買いをすることが多い」を話すと、三田さんも「本のおいが好き。見た目と内容がリンクするのではないか」と思いつき、雰囲気から直感で選ぶと楽しい」と独自の視点を紹介した。

「算数沼」では、大人向けの算数教室を渋谷をはじめ全国で展開する、和から株式会社代表取締役社長の堀口智之さん、算数・数学の楽しさを伝えるmathchannel代表取締役で日本お笑い数学協会副会長の横山明日希さんが登壇。「あいまいさの理解につながるのが算数や数学」とする堀口さんは、自身の経験に触れながら「日常の延長上に抽象化された世界はある。日常の中で算数的世界を見つめるのが大事」とすると、「数学・算数との向き合い方は人それぞれ」と話す横山さんは「子どもたちが（学年にとらわれず算数・数学の深い世界に踏み込める場をつくりたい。人生の中で数学・算数と触れ続ける場が必要）」とそれぞれの視点で沼の深さを語り合った。



「算数沼」に登場した横山明日希さん(右)、堀口智之さん(中央)、モデレーターの川内イオさん



「活版印刷沼」ではPrintworks Studio Shibuyaの長谷川賀寿夫さん(中央)が、活版印刷機を持参してトークを繰り広げた(右がPaper Parade Inc.の和田由里子さん)

国学院初代院長・高崎正風

「躬行実践」生涯貫く

学問ノ道

第28回

明治23年、国学院初代院長となつた高崎正風は、明治天皇の信任厚く、御歌所長として「彼の十万の御製四万の御歌は、大方翁が点し奉られしもの」と謳われた国学者・歌人である。天保7年7月28日、薩摩藩士高崎五郎衛門の子として生まれ、薩摩国学の中心人物・八田知紀に歌を学んだ。その後、文久3年「八月十八日の政変」に重要な役割を果たすなど、国事に奔走した後、明治元年鹿児島に戻り、地頭職を務めた。地頭時代には、教育に注力し、「古語拾遺」、「古事記」、「日本書紀」四書五経などをテキストとして掲げ、「躬行実践」（学則）を旨とする垂水学校を設置した。

4年に左院少議官、7年に左院財務課長、8年侍従番長、9年歌道御用掛兼勤、11年文学御用掛、19年御歌掛を経て、21年御歌所長、22年には宮中顧問官となる。そして、23年11月19日には、山田顕義の懇請により、皇典講究所を

母体とする国学院初代院長に就任する。当時、司法大臣で、皇典講究所初代所長であった山田は、時勢に鑑み、皇典講究所の拡張を企図して、規則を改正し、学術の討議論、公開講演を行って広く学術の普及啓蒙に当たるとともに、「生徒養成」を行うことを掲げ、国学院設立に奔走した。その背景には、大日本帝国憲法発布、帝国議会開設に伴う立憲政治の運用に基礎を与える日本の古典・歴史の研究を行い、国家の基礎を固める教育が必要であること、その任務の一端は皇典講究所が負うべきであるという山田の考えがあった。



国学院第1回卒業式時の集合写真に納まる高崎正風(右から4人目)

研究開発推進機構准教授 宮本蒼士

今キヤクキャンパスを歩

遠隔授業で静まりかえったキャンパス。
にぎわいが戻るのには先になりそうだ。
本格的に活気あふれる学生たちの声に
包まれる日を待つ現在の学び舎を歩く。

渋谷キャンパス

創立以来138年の歴史を刻む国学院大学。
今からちょうど100年前の大正9（1920）年には我が国最初の私立大学のうちの1校として大学令により大学に昇格。
12年5月に現在の渋谷キャンパス（当時は渋谷御料地）に移転した。
コロナ禍の今、行き交う人の姿が少ない現在のキャンパス。
このような事態は移転以来、約100年の歴史の中でかつてないことかもしれない。
後期開始に向けて利用を一部再開した施設や正課・課外の学びを充実させる施設の一部を紹介する。

東京メトロ
表参道駅方面



【図書館】人文社会科学系大学の中でも有数の蔵書数を誇る本学図書館。現在は、学生・教職員に限り利用可能(学部生は事前申し込み制)



【図書館】通常、770席ある閲覧席は、感染症対策を講じた一部が利用できる



【博物館】感染症対策をした2体の壱輪がお出迎え



【博物館】短縮開館中の博物館では企画展「モノで読む古事記」を10月31日までの予定で開催中。オンラインミュージアムも好評



1号館
教室を出入りする学生の声絶えない吹き抜け空間も今は静寂の中



5号館
授業や課外活動に使われるアリーナ

J R、東京メトロ
恵比寿駅方面



2号館
神社祭式の実技を学ぶ祭式教室



18階有栖川宮記念ホールからは都心のビル群が一望できる



中庭
コロナ禍によって行き交う人もまばらなキャンパス



3号館
再開発が進む渋谷の街を望む



6号館
2階にも自習ができる「学ぶ空間」が充実



6号館
自習だけではなく「みちのきち-旅する-」に配架された世界に関連する書籍を手にもすることもできる

J R、私鉄各線
渋谷駅方面

今に伝える神殿と鎮座90年の歴史

新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が全国に出されてきた今年5月1日。渋谷キャンパス内の神殿では、ご鎮座90年を祝う記念祭が静かに執り行われた。天照大神を主神とし、天神地祇八百万神をお祀りする国学院大学の神殿は、明治・大正の実業界の元老として活躍した和田豊治理事の指定寄付を受けて、昭和5（1930）年4月30日に神殿祭、鎮座祭を斎行。翌5月1日に御鎮座奉祝祭を斎行し、現在までこの日を「神殿鎮座の日」と定めて祭儀を行っており、今年90年の節目を迎えた。
国学院大学の創立記念日、入学式、卒業式などの式日には、神殿で祭典を奉仕したのちに式典を行うこととしている。



▲ご鎮座から90年を経た現在の神殿。拝殿や幣殿などは後に建設された
▶昭和5年創建当時の神殿

紙面を取り外し、広げてお楽しみください！
特集「今キャンパスを歩く」（渋谷キャンパス）は、8面に続きます。
キャンパスにお越しの際のキャンパスマップとしての活用もできます。

今 後期待のアスリート育てるSS3

今年4月、教育機関の体育施設として国内屈指の最新設備を誇る「SPORTS SQUARE 3 (SS3)」が完成した。アスリート向けにトレーニング、リハビリ、ケアトレーニングなど多様な目的に応じた使用が1施設で可能となった。

東京五輪仕様の畳を敷き詰め、体幹トレーニングにも用いられるクライミングウォールも設置された柔道場。高地トレーニングと同様の負荷をかけながら運動が可能な低酸素ルームを備えたトレーニングルーム、競技や利用する場面に応じた3種類のミーティングルームなどニーズと多彩な利用シーンに合わせた設備がそろった。

コロナ禍で大会の中止・延期が続く体育部会だが、新施設で力をつけ来べき大舞台へ前を向く学生たちの活躍が今から待ち遠しい。



学生ラウンジは練習以外の時間を有効活用。オンライン授業で勉強する学生も



SS3 真新しい東京五輪仕様の畳が敷かれた柔道場

今 キャンパスを歩く

たまプラーザキャンパス

たまプラーザキャンパス（当時は新石川校舎）が完成し、授業を開始したのは今から35年前の昭和60（1985）年。全学部の1、2年生全員を対象に授業を開いていた時期を経て、平成21（2009）年には人間開発学部が同地に誕生し、現在は約1400人の学生が学ぶ。そして、来年4月には設置認可を申請中の観光学部（仮称）が国学院大学で6番目の学部として動き出す予定だ。

今 生まれ変わる 新たな学ぶ空間へ

たまプラーザキャンパスでは校舎の改修工事が進む。キャンパスの顔ともいえる1号館は昨年、外構工事を終え、木材を用いて自然豊かな多摩丘陵と調和したデザインに。2階につながるスロープも新たに完成し、各教室へのアクセスがしやすくなった。

現在は、一部教室の間仕切り壁を全面ガラス壁に変更するなどの内装工事の真っ最中。専門的な知識を学ぶ特別教室は学科ごとに建物やフロアを分けて集約が進み、授業の合間の移動では時間短縮が期待される。

学生の憩いの場や学ぶ空間として使用される共用部分はフロアごとにデザインが変わり、目的や気分で場所を選んでみるのも学生生活の楽しみになりそうだ。

▼フロアごとに異なるデザインのテーブル・椅子が設置され、個性的な自習スペースに



1号館から中庭、野球場を望む



グランドピアノを備えた音楽練習室、和室、部屋が学生たちのにぎわいが戻る日を待つ



今春、若木21から課外活動の各施設が移転した5号館



木目調の廊下とガラス壁の明るい内装に進化中



昨年リニューアルしたキャンパス正門付近。内装工事のフェンスが見える

東急田園都市線
たまプラーザ駅方面



ボクシング場や体育部会の部屋も5号館に入る

先輩に 聴く

これまでに15万人を超す「院友」と呼ばれる卒業生を世に送り出してきた国学院大学。その活躍の場は多岐に及ぶ。連載企画「先輩に聴く」では、各界で活躍する先輩にさまざまな視点からお話を伺う。初回の拡大バージョンで紹介する1人目は、明治38年創業の老舗割烹「亀戸升本」を運営する(株)升本フーズで副社長として主力の弁当事業を牽引する坂本美雄さん(昭51卒・84期法)。そして2人目は、東京都杉並区立郷土博物館分館で学芸員として働く森泉海さん(平20卒・116期神文、平22修・118期博前史)。まったく異なるフィールドで励む2人の「人生の標」とは…。

「人の縁」に感謝 「こだわり」で道を拓く

(株)升本フーズ副社長
坂本美雄さん(昭51卒・84期法)

元上司を手伝うため25年勤めたアパレルメーカーを退職したが、升本の代表を務める高校の先輩にお願いして生活のために始めたアルバイトが升本との縁の始まり。飲食店中心から弁当事業にシフトするタイミングでもあり、立ち上げメンバーとして営業を担当した。前職と同じ営業でも扱う商品が異なる。商品を知るためにも毎日3食、弁当ばかり食べていた。弁当事業はいまや升本の看板となっているが、職人の手作りにこだわった点が成功の秘訣。保存料や合成着色料を使うのが主流だった弁当を、升本は保存料・合成着色料を使わず1日3回作った。おいしいのは当たり前で、安心・安全・健康が第一にこだわったのだ。

「升本といったら亀戸大根」というこだわりも忘れていない。途切れていた栽培を升本が復活させ、江東区内の農家が保存していた種を他所にも分けて生産を拡大した。弁当も含め、升本の食事は亀戸大根のつまり漬けが欠かせない。米麴と青唐辛子と有機醤油を長期熟成させた秘伝の辛味「亀辛麴」もすべてのお弁当で提供されるこだわりの一つ。

弁当事業は法人向けの直販が売り上げの50%を占めるが、その主力がコロナ禍の影響をまともに受けてしまった。打開策として4月から個人向けにランチ弁当を販売し、「体に優しいので、休校で家にいる子どもと一緒に食べられる」と好評だ。また、「8000円以上」としていた配達を個人のニーズに合わせて「2000円以上

上」まで下げ、ネット販売もしている。まだ完全ではないが、一度始めたものは満足できるような展開までもっていききたい。

大学時代のサークル「水と渓谷の会」の仲間が升本に集まってくれたり、アパレル時代の同期がランチ弁当を注文してくれたりするので、人のつながりに感謝を忘れてはならないと感じている。後輩の皆さんには、「何事もチャレンジャー」と伝えたい。与えられたものをこなすだけでなく、自分自身でもっと動いて世界を広げる気持ちが大変だ。



亀戸升本本店の夏季限定メニュー「亀戸大根冷やしあさりめし」

さかもと・よしお

昭51卒・84期法。アパレルメーカーを経て平成12年に(株)升本フーズ入社。国学院大学のサークル「水と渓谷の会」で魅了された山登りが趣味で、61歳の時に「日本百名山」全踏破を達成。

▶ 亀戸升本HP
<https://masumoto.co.jp/>

視野は広く興味を持って 資料にストーリーを

杉並区立郷土博物館分館学芸員
森泉海さん(平20卒・116期神文、平22修・118期博前史)

歴史や神社仏閣巡りが好きで、「新しくできた学部でもしろうそうだ」と神道文化学部を志望。「教職のついで」と受講した博物館学へのめり込み、担当の青木豊先生(文学部教授)の勧めもあって大学院で戦前期の博物館について研究してから杉並区立郷土博物館での仕事に就いた。

学芸員は内向きの仕事と思われるが、調査の中では力仕事をすることもある。そこから資料として残すべき物を抜き取るのだから、それなりの知識と体力がないと対処できない。学芸員は資料にストーリー付けするのが仕事でもある。それぞれの資料には多様な歴史背景がある。専門にこだわらず、視野を広く興味を持って調べることが大事だ。どのような人が、どのように使って、どんな意味があるのか、ちゃんと関連することを調べてストーリーを与えていくことが重要だと思う。

夏の甲子園は新型コロナウイルスの影響で中止されたが、当館では「杉並の高校野球」という企画展を8月30日まで開催した。マスクで紹介されると「幻の甲子園」と呼ばれる昭和17年の大会に出場した、もう90歳を超えている人から連絡をもらい、当時のスコアブックを展示に加えることができた。この仕事をしていると、院友を含めた「人の縁」に助けられることが多い。

今回のコロナ禍で、人々の価値観が変わって文化的活動の必要性が問われている。自粛だけでは退屈するし、ストレスもたまると感じる。それを解消する役目が文化的活動にはあるのではないかと。「や」と博物館や美術館に行くことができ、気分が晴れた」との声を聞くと、文化的活動には人々の心を落ち着かせる力があるのだと強く思う。



もりいずみ・かい

平20卒・116期ほか。国学院大学では神道文化学部で宗教学を学んだ後、大学院文学研究科史学専攻で博物館学と日本近現代史を専攻。平成24年に杉並区立郷土博物館の学芸員となり、30年から分館勤務。

▶ 杉並区郷土博物館HP
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/histmus/>

インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からのお知らせ

国学院雑誌 学生懸賞論文の募集

未発表の学術論文であれば題目は問いません(卒業論文も可)。優れた論文に賞状と副賞(入選5万円、佳作3万円)を贈呈し、国学院雑誌への掲載を予定しています。

第一部門=本学文学部・神道文化学部・別科在籍者

第二部門=本学大学院文学研究科・専攻科在籍者

第一部門=令和3年3月31日(水)までに論文原稿(400字詰め原稿用紙換算40~50枚)、800字程度の要旨、英文タイトルのテキストデータに指導教員の推薦書を添付し、文学部資料室国学院雑誌編集係へ提出してください。

第二部門=国学院雑誌第121巻(1~12号)に掲載された投稿論文の中から授賞します。

文学部資料室 国学院雑誌編集係 (☎03・5466・4813)

国学院大学法学会 懸賞論文を募集

法学・政治学に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文は表彰を行うとともに「懸賞論文入選集」に掲載。副賞(最優秀賞:図書カード10万円分、優秀賞:同5万円分、佳作:同3万円分)が贈られます。

令和3年1月22日(金)15時までに論文(A4サイズ1ページ当たり40字×30行の横書きで脚注含め10~40枚、本文の前に目次を付ける)と受付票と論文の概要(全てword形式)を、法学会懸賞論文窓口(law-kensyo@kokugakuin.ac.jp)に電子メールに添付して提出してください。受付票と論文の概要は法学部ホームページ

キャリアサポート

インターンシップ事後研修

インターンシップで一番重要なことは「振り返り」による課題発見、目標設定です! インターンシップの経験を価値あるものにするためには、今後の目標設定や取り組みへと具体的に移していくことが重要です。実習後の振り返りを行い、自己の課題を明確にすることで今後の成長へと繋げていきましょう。

※ライブ配信

日 9月30日(水)

時 12時50分~14時20分

対 1~3年生

ライブ配信に参加する場合はK-SMAPY IIで事前予約。後日、録画のウェブ配信を視聴する場合は予約不要。

第2回 Web 合同企業説明会

秋採用を行う準大手企業・優良中小企業を中心に開催する、Web合同

企業説明会です。国学院大学生を採用する意欲のある企業の人事担当者から詳しい説明を聞き、本当に自分に合った企業をこの機会にぜひ見つけましょう!

日 10月または11月予定

対 4年生

後期スタートガイドンス ~書類・自己PR・企業研究~

採用選考の早期化が進み、3年の秋にどう活動するかが就職活動の大きな鍵となります。優先選考につながるなど重要性が高まっている秋・冬インターンシップに参加するための書類・自己PR対策や業界・企業研究のポイントなどを分かりやすく説明します。最新の企業動向なども理解して、効果的な活動を行うためにも、ぜひ本ガイドンスを視聴しましょう。

日・時 10月7日(水)16時30分~17時40分
※約70分のライブ配信。視聴希望者はK-SMAPY IIで事前予約が必須

対 3年生

企業セミナー

期間中ほぼ毎日、各業界のリーディングカンパニーの採用担当者による説明会があります。参加企業は個別の企業説明会では予約が取れない超大手優良企業ばかりです。この機会に自分の志望する業界の理解を深めましょう。自分が何をしたいか決まっていな人は、まず企業の話聞いて興味・関心の幅を広げていきましょう。

※ライブ配信予定

日 10月12日(月)~11月27日(金)

時 水を除く平日:15時20分~17時(40分×2回)

水:13時25分~15時5分(40分×2回)、15時20分~17時(40分×2回)

※企業は同じ説明を2回実施。いずれかに参加を

対 1~3年生

※各イベントの詳細確認・申し込みはK-SMAPY IIの「就職/各種面談」→「セミナー申込」から

(<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/184300>)からダウンロードできます。

※政治専攻のスタディ・ペーパーで作成した論文は応募できません

法学会懸賞論文窓口(law-kensyo@kokugakuin.ac.jp)

各種学内奨学金の願書配布

以下の学内奨学金の願書を配布します。

東日本大震災学費減免制度(令和2年度が新規募集最終年度)

国学院大学留学生奨学金(年額20万円限度)

教育ローン利子補給制度(年額5万円限度)

ふるさと奨学金(年額20万円、令和2年度新設)

あすなる奨学金(年額30万円、令和2年度が新規募集最終年度)

コピー奨学金(年額30万円)願書の受付などの詳細は願書で確認をしてください。

K-SMAPY IIお知らせ機能で配信

国学生生活課(☎03・5466・0145)

か、たまプラーザ事務課(☎045・904・7705)

※全て単年度採用のため、前年度受給者でも出願が必要です。詳細は大学HPで確認をしてください

感染が疑われたら保健室に連絡を

新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

保健室アドレス

hoken@kokugakuin.ac.jp

渋谷 TEL(平日9時~16時30分)

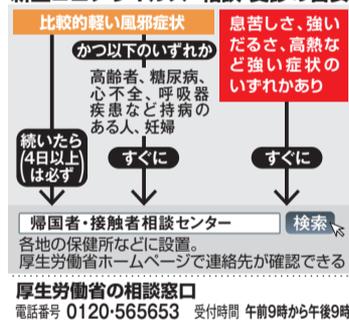
☎03・5466・0148

たまプラーザ TEL

(平日9時~16時)

☎045・904・7721

新型コロナウイルス 相談・受診の目安



令和2年5月13日付 産経新聞 無断転載・複写不可

「親の心子知らず」の就活

「ニューウェーブ時代の就職事情」



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

実りの秋。子どもの「実り」と言えば、親にとっては就職でしょう。しかし、「親の心子知らず」。親子で就職観の行き違いも見られます。特にコロナ禍の今年は、リモート面接など、勝手の違う就活となっています。感染拡大の先行き不安で、採用抑制の動きも広がっています。過去に国学院大学は、最も就職率が伸びた大学の一つに挙げられました(『沈む大学伸びる大学』朝日新書)。苦慮した人間開発学部1期生の就職ランキング(平成24年度)は、国公立大文系学部中、名古屋大学経済学部と並んで全国10位でした。「人づくりの国学院」の面目躍如というところでした。

企業回りをした際も、「まず一杯食べて(一人採用して)ください。必ず来年もお代わりしたくなります」と、自信をもって言えたものです。他方、学生には、「国学院」という看板を買う時代ではない。大学で売っている野菜や魚(専門)と異なる、古い世代の権威を否定する「ニューウェーブ」という指向性を持ちます。大人社会に巣くう権威を否定し、我が道を行くという人学生スタイルです。学術的には「プロテウス的人間」



楽しむ国大ライフ! 私たちの部会・サークル・研究会

体育連合会吹奏楽部

当部は夏の吹奏楽コンクールへの出場や定期演奏会の開催をはじめ、学内外での依頼演奏やパレード出演、東都大学野球1部リーグや箱根駅伝での応援活動などを行っています。また、靖国神社で行われている春季・秋季例大祭やみたままつりで演奏をさせていただいています。私たちの演奏で皆さまを笑顔にできるよう、楽器経験やブランクの有無に関係なく、部員一丸となって日々全力で活動中です。



ココが自慢

令和元年度東京都吹奏楽コンクールで金賞、建国記念の日奉祝パレードで2年連続最優秀賞を頂きました。

【構成】2年10人、3年20人、4年9人
【活動場所】【渋谷】若木会館011号室、音楽練習室2.3
【HP】 <https://kokudaisymphonicband.wixsite.com/home>
【Twitter】 @KokugakuinSuibu 【Instagram】 @kokudai_suibu
【Facebook】 @KokugakuinSuibu

硬式野球部 下級生だけのリーグ戦 開幕

若手選手の育成を目的とした第1回フューチャーズリーグが8月21日、国学院大学たまプラーザキャンパス野球場などで開幕。本学硬式野球部のほか、日本体育大、桐蔭横浜大、慶応義塾大が参加して総当たりのリーグ戦を戦う。

28日に行われた桐蔭横浜大との2回戦では、1-3の九回表、安打と四球で走者をため途中出場の石鳥亮選手(経営1)、山下行則選手(健体1) =写真=の適時打で同点とすると、2死満塁から押し出し死球で決勝点を挙げた。

投げては、七回から登板した古江空知投手(健体2)が九回裏2死一、二塁のピンチを三振に抑えるなど3回無失点の好投だった。



蹴球部 アミノバイタルカップ 6年ぶり本戦出場決める

「アミノバイタル®」カップ2020 第9回関東大学サッカートーナメント大会の本選出場を決めるプレーオフが8月29日、白鷗大学グラウンド(栃木県小山市)で行われた。山梨大に6-0、山梨学院大に2-1と連勝した蹴球部は、松蔭大と対戦。前半にオウンゴールで先制すると金子大晟選手(法3) =写真=の追加点でリードを広げた。試合終了間際にも追加点を挙げ3-0で快勝。平成26年以来となる本選出場を決めた。



(蹴球部提供)



短歌研究会

短歌の制作およびその批評の技術の向上を目指しています。月1回定例の歌会や勉強会を軸に活動。メンバーそれぞれの作った短歌を批評し合ったり、有名な歌人の作品を取り上げて鑑賞したりしています。学部・大学問わず、見学の方をいつでも歓迎しています。平成30年以降は、年1回の会誌『真空』を発行し、国学院大学の学祭「若木祭」などで販売しています。また折にふれて、吟行などの企画も行っています。

ココが自慢

歌会では毎回、活発な議論がなされています。他者からの批評をどのように次へ生かしていくかを重視しています。

【構成】2年6人、3年3人、4年5人
【活動場所】【渋谷】若木会館106号室
【Twitter】 @kokugakuintanka
【ブログ】 <https://kokugakuintanka.hatenablog.com/>



瑞玉会

瑞玉会は、祭式を中心に雅楽や舞・衣紋・教化など神職として身につけるべき技術などの修得を目指しており、1年生でお祭りの流れを一通り理解することができます! この他、石清水八幡宮での夏合宿や神社巡拝、助勤など学外での活動も盛んに行っています。発足から70年を超えた今、当会出身の先輩は全国各地の神社で神職として活躍しています! 神職に向けての実践的な技術習得、神道に興味がある方をお待ちしています!

ココが自慢

大学神殿での祭典奉仕を行える唯一のサークルです。日々の学びをすぐに実践でき、自信をつけられます!

【構成】2年4人、3年3人、4年6人
【活動場所】【渋谷】120周年記念2号館祭式教室
【Twitter】 @midutamakai 【HP】 <https://www.midutamakai.com/>



Lenny dAnce

主に月8回ほど東京都世田谷区内の体育館を借りてバスケットボールをしています。その他にも季節ごとにBBQやボウリング大会や合宿、大会などにも参加していきます。普段の活動やイベントを通して先輩や後輩など年齢の壁を超えて親交を深め、皆さんの大学生活をより良いものにできる場になれることを目指しています!

ココが自慢

バスケットをもっとやりたい!という人のために、年に2回合宿を行っています。がっつりバスケットに打ち込めます!

【構成】2年40人、3年30人、4年30人
【活動場所】東京都世田谷区内の体育館
【Twitter】 @KGU_LennydAnce
【Instagram】 @LennydAnce_official

バイロロジー愛好会

自転車を軸にさまざまな活動をしています。サークルとしての行事はゴールデンウィーク前後の新歓ラン、夏休みのキャンプラン・合宿、文化祭休みの文化祭ラン、春休みの追い出しランがあります。参加は強制ではありません。また、自分で企画を立ち上げてランを開くこともできます! ランなどを通じて経験を共有することで会員同士の絆を強められます! サイクリングの基本を教える機会や貸し出し用自転車もあるので初心者も大歓迎です!



ココが自慢

サイクリングは気軽に効率よくカロリーを消費できるので運動不足解消にもおすすめです!

【構成】2年12人、3年2人、4年7人
【活動場所】【渋谷】百周年記念館1005号室、世界中!
【Twitter】 @k_bicolo_2
【Instagram】 @kokugakuin_bicology



礼法研究会

礼法研究会は祭式(神社で行われるお祭りを行う際の作法)を練習するためのサークルです。普段週3回、祭式の練習をしています。それ以外には大学の行事に参加しています。10月の観月祭では祭員として、11月の若木祭では参観者からご祈禱を承ります。1月の成人加冠式では、新成人の方々の先頭に立ち案内する重要な役割をお預かりしています。学年昼夜を問わず入会希望の学生をお待ちしています。

ココが自慢

予習復習ができ、祭式の授業をより充実したものにできます。神社から助勤の依頼も来るので、実践の機会もあります。

【構成】2年6人、3年5人、4年1人
【活動場所】【渋谷】120周年記念2号館祭式教室
【Twitter】 @reihouken



体育連合会ローラーホッケー部

男女ともにチームがあり、日本一を目指して活動しております。また、1年間のうちに大会がいくつかあり、その大会ごとに目標を立て日々活動しております。普段はたまプラーザキャンパスのSS2で練習を行っていますが、他の大学と合同で練習を行ったり、社会人チームと練習をすることもあります。先輩後輩みな仲良く、練習中は真剣に、オフの時はリラックスした雰囲気楽しく活動しています。

ココが自慢

マイナーな競技ゆえ全員が同じスタートラインから始められます。努力によって日本代表にもなれます。

【構成】2年11人、3年10人、4年10人
【活動場所】【たま】SS2
【HP】 <https://kokugakuin-rollerhockey.themedia.jp/>
【Twitter】 @kokugaku_hockey 【Instagram】 @kokugakuin.shinkan

K:DNA——創立138年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

楽しむ国大ライフ! 私たちの部会・サークル・研究会

課外活動の本格的な再開はこれからですが、新たなチャレンジをしたいあなた、持っている力を伸ばしたいあなたに、7月号に引き続き国学院大学の公認部会を紹介します。協力いただいた部会の皆さまに心からお礼申し上げます。本企画は来月も続きます。 **【II面にも】**



鬼ごっこサークル"RUN"

週に1回、代々木公園でスポーツ鬼ごっこの練習をしています。スポーツ鬼ごっこは競技の1つですが、他にもウォーミングアップでいろんな鬼ごっこをしています。目標は全国大会出場です。去年は残念ながら全国の舞台には立てませんでしたが、今年こそ全国にみんなで行きたいです!他にもBBQやボウリング大会などのイベントも開催する予定です。少人数のサークルなので、みんな家族のような仲の良い友達のような関係です!

ココが自慢

学年と男女の違いを超えて仲が良く、練習後には女子勢おすすめもの甘いものを食べに行ったりしています。

【構成】 2年5人、3年11人、4年1人
【活動場所】 代々木公園
【Twitter】 @kokugakuin_run



体育連合会弓道部

弓道部は創部100周年を迎える歴史ある部です。東京都学生弓道連盟1部リーグ昇格を目指し32人で練習に励んでいます。初心者も「重要な戦力」として歓迎しています。多くの初心者が経験者を追い越し、レギュラーメンバーの座を勝ち取り活躍しています。また、経験者も「貴重な即戦力」として活躍を期待しています。あなたの経験を生かし、共にさらなる高みへ挑みましょう。今が弓道を気軽に始めるラストチャンス!ぜひ、弓道部へ!

ココが自慢

初心者も安心の指導体制▷豪華な指導陣▷都内屈指の道場▷学業・バイトとの両立/切磋琢磨できる環境

【構成】 2年13人、3年7人、4年12人
【活動場所】 【渋谷】若木会館弓道場
【HP】 <http://kokudai-kyudo-bu.jp/> 【Twitter】 @kokudaikyudobu



考古学会

90年以上の歴史を持つ考古学会はさまざまな考古資料を通してそれぞれ興味のある時代・分野について学ぶ学生が所属しています。学内では1本の論文について、先輩方や部員同士で学ぶ輪読や、縄文の施文、土器片の観察などを、部員が集まりやすい時間に行っています。考古学では実際に遺跡や博物館を訪ね、本物の遺物や遺構、雰囲気などに触れることが重要です。休日や長期休暇を利用して博物館や遺跡の見学を行っています。

ココが自慢

部室には論文や雑誌、遺物や実測・拓本の道具など、考古学を学ぶ際に用いられるものが多くそろっています。

【構成】 2年2人、3年9人、4年6人
【活動場所】 【渋谷】若木会館003号室
【Twitter】 @kokugakuin_arc 【Facebook】 @kokugakuinkougakkai



体育連合会ゴルフ部

私たちゴルフ部は年2回のリーグ戦に向けて毎週火、水曜日の放課後に練習を行っています。部活動ではありますが、全体の雰囲気も良く、練習がキツくて周りについていけないということはありませんし、今の部員も大学生からゴルフを始めた人がほとんどで、指導者が基礎から教えてくださるので安心してゴルフを始めることができます。ちょっとでも興味がある人は体験会に参加してみてください!

ココが自慢

学生はゴルフが低料金ででき、学生のうちからゴルフやっていると必ず社会人になり役に立ちます!むしろやるべき!

【構成】 2年2人、3年2人、4年8人
【活動場所】 TimeZiPs24 (東京都西東京市)
【Twitter】 @kokudaigolf72



サブカルチャー研究会

普段は毎週土曜3~5限に活動しています。ボードゲームをしたり雑談をしたりしています。コミックマーケットに合わせて出店し、同人誌の発行・販売をします。

ココが自慢

同人誌は、特にジャンルを問わず記事を書いています。どんなことがお好きなかたでも気軽に参加できます。

【構成】 2年10人、3年7人、4年1人
【活動場所】 【渋谷】教室
【Twitter】 @kokugaku_subcul



写真部

夏季休暇、若木祭(学祭)、冬季休暇に写真展示会を開催します。また、年に数回、不定期で写真撮影会を行ったりしています。部室では、各々が撮った写真を印刷したり、談笑したりしています。

ココが自慢

カメラ初心者・経験者を問わない気軽な部です。

【構成】 2年9人、3年5人、4年10人
【活動場所】 【渋谷】若木会館107号室
【Twitter】 @photoclub_kokug

未来につなぐ 学術資産研究

学問の府から刊行された教育雑誌

『兄弟』『姉妹』(国学院大学出版部)

『兄弟』『姉妹』は、明治42(1909)年6月から国学院大学出版部により刊行された月刊児童雑誌である。43年には『兄弟姉妹』として合併され、44年7月まで刊行された。これまで両誌は本学において未所蔵であったが、今般、榊原茂氏(昭33卒・66期宗、川越八幡神社宮司)のご厚意により『兄弟』『姉妹』各第1巻1~3号の寄贈を受けた。

明治30年代から精力的に書籍の編纂や出版事業を手がけてきた国学院大学は、「普通教育の側面的補充」を目的に、『兄弟』『姉妹』を通して児童の「国語教育」「作文の修養」「趣味の啓発」を目指した。ところが、両誌は国学院大

学という学問の府から刊行された教育雑誌としての特徴を強めた結果、時あたかも児童雑誌が商業主義による娯楽性を重視していく中で、経済的には思うような成果を挙げることができず、わずか2年あまりでの廃刊となった。

なお、平成24年度文学部共同研究費による「国学院大学出版部発行の児童雑誌『兄弟』『姉妹』『兄弟姉妹』の総合研究」(研究代表者・上田正行)の報告書には、両誌および『兄弟姉妹』刊行の意義や教育的性格などについて詳細な検討がなされている。

高野裕基(研究開発推進機構助教)

